

《担当者名》礒部太一

【概要】

科学技術社会論と生命倫理学の概要を、講義形式だけではなく、映像資料などを参照しながら、ワークショップ、グループワーク、発表などを実施し能動的に学ぶ。授業前半では、科学技術・医療と社会の関係について科学技術社会論の概要を理解し、後半では、実際の医療現場での倫理・社会的問題の事例（インフォームド・コンセント、患者・医療者関係など）や社会における医療の役割などを学際的な観点から幅広く取り扱う。

【学修目標】

科学技術・医療と社会の関係について理解するために、科学技術社会論と生命倫理学の基本的な概要や問題事例を能動的に学ぶことで、社会における科学技術や医療の役割などを説明できる。

1. 科学技術・医学と社会の関係について、自分の日常生活と関連付けながら説明できる。
2. 実際の医療現場での倫理・社会的問題の事例（インフォームド・コンセント、患者・医療者関係など）を説明できる。
3. グループワークと発表などの参加型の学習を通じて、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を応用できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス	授業全体の予定や授業の進め方などの説明	礒部太一
2	科学技術・医学と社会	科学技術・医学と社会の関係について科学技術社会論の概要を説明できる。	礒部太一
3	科学技術・医学と社会	科学技術・医学と社会の関係について科学技術社会論の概要を説明できる。	礒部太一
4	科学技術・医学と社会	科学技術・医学と社会の関係について科学技術社会論の概要を説明できる。	礒部太一
5	科学技術への市民参加	リスクコミュニケーション、科学技術への関与の仕方を概説できる。	礒部太一
6	科学の不確実性	科学の完全無欠という誤解、科学と社会の利害関係・価値観との絡み合いを概説できる。	礒部太一
7	生命倫理の誕生と展開	生命倫理の概要と社会的・歴史的変遷を概説できる。	礒部太一
8	医の倫理	医の倫理、新しい医療のモデルの歴史と意義を説明できる。	礒部太一
9	「患者-医療者」関係	患者と医療者関係の歴史と意義を説明できる。	礒部太一
10	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセントの歴史と意義を説明できる。	礒部太一
11	グループワーク	「死の受容」をテーマにしたグループワークを実施する。	礒部太一
12	グループワークの発表	「死の受容」をテーマにしたグループワークを実施する。	礒部太一
13	期末レポートについて	期末レポートの書き方を理解する。	礒部太一
14	医療の役割	健康と病気、医療の論理、医学の進歩と医学研究について概説できる。	礒部太一
15	まとめ	授業全体のまとめ	礒部太一

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

期末レポート（100%）

【教科書】

神里 彩子 他 編 「医学・生命科学の研究倫理ハンドブック」 東京大学出版会 2015年

戸田山和久 著 「新版 論文の教室-レポートから卒論まで」 NHK出版 2012年

【参考書】

小林傳司 著 「トランス・サイエンスの時代-科学技術と社会をつなぐ」 NTT出版 2007年

玉井真理子 他 編 「はじめて出会う生命倫理」 有斐閣 2011年

細見博志 編 「死から生を考える」 北國新聞社 2013年

【学修の準備】

- ・授業の前後において、教科書の該当箇所を一読する（80分）。
- ・授業内で出した課題について、次回の授業の際までに行なっておく（50分）。
- ・授業内で実施するグループワークと発表に積極的に参加する。一部、授業外で宿題として実施する（30分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP1）生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。